

ふるさと再発見

～重源上人の里みてある記～

(九) ^{だけ}嶽の観音

通称「庄方観音」と呼ばれているこのお寺は、^く真言宗に属し^る狗留孫山^{そんざん}法華寺と申し、本尊は聖観音菩薩です。この寺は、昔は狗留孫山の山頂近くにあったものを宝暦二年(1752)観音堂のみを残して、奥の院・嶽の観音と称して本堂は現在地に移されました。



法華寺の山門

当初は玉蘆山金徳寺と称し、白鳳時代に天武天皇が国家の安泰、国民の幸福を願い、国々に勅願所を建立され、狗留孫山山頂近くに伽藍を建て、十一面観音菩薩を本尊に安置されました。それから数百年後に、源平の合戦で東大寺は焼失したので、俊乗房重源上人が再建の大勸進に任命され、文治二年(1186)に用材採集のため徳地の柚山に入られたおり、狗留孫山の金徳寺が荒廃しているのを嘆かれ、直ちに堂宇を再建され、お弟子の恵浄房を留めて靈佛十一面観音菩薩に、東大寺再建の成就と職人たちの安全を祈願させたということで、重源上人が中興開山という縁起が伝わっています。

この頂上に至る道筋には一丁ごとに、丁塚地蔵や三十三番観音像が刻まれた自然石が並び、奥の院の周りには、中興開山の碑、賽の河原、穴観音他靈石奇岩が多く見られます。

(十) ^{きびきだに}木引谷

重源上人は東大寺再建の用材採集のために先ず安養寺を建立し、ここを拠点に柚山に入り、巨木の用材を切り出すため、山を開き谷を埋めて林道をつける難工事を重ねて、用材を搬出しました。串方面の山から切り出した用材は、木引谷を土引きして下して、山畑から島地川に流し、佐波川の本流に運ばれたのでしょうか。木引谷の名は、山道を自転車で下ればブレーキをかけ過ぎてキーキーいうのでキーキー谷かと思えば、八百年前から大木を土引きしたのを「木引谷」それを(キーキーだに)と呼んだのでしょうか。

かつて萩城への山代街道が、萩から山口へ城が移されてからは、鹿野から串へ木引谷を通り漆尾から引谷を通り山口に至る「新山代街道」となり、現在に至っても、木引谷は、徳地から鹿野を通り須万に至る県道9号徳地徳山線として生かされている道路です。これらは八百年昔の国家的大事業の歴史を物語るもので、徳地の林業にとっては、重源上人こそ徳地林業を興した元祖と称すべきお方でしょう。



木引谷の道